

23 . サパンバトの伝説 (タガログ)

昔、今では私たちが「サパンバト」と呼んでいる所に、若く美しいマラという少女がいました。彼女がたいへん美しいので、その地域のハンサムな若い男たちに驚嘆されて、彼らは彼女に求婚し、結婚しようとしていました。

マラは、彼女の好きな者を、それこそ、この地域の最も金持ちの男を含めて、どんな男でも選ぶことができました。しかし、それにもかかわらず、彼女の目は、ただひとりの男、純真な、しかし親切な農夫、アントニオに注がれていました。彼らの愛は、お互いその地のすべての富よりも価値がありました。そして、日がたつにつれて、その愛は深まり、強くなっていきました。

しかし、不幸なことに、マラの厳格な父は、アントニオを承認しませんでした。父は、娘をもっと地位の高い家のだれかと結婚させたかったのです。マラの父、マン・アンドイは、マラをアルマンのような、この地域で高い地位の者と結婚すべきだと考えていました。この家は、土地や財産を持っていました。しかし、マラは、アルマンが全く好きではありませんでした。彼は無礼で、浅はかで、そして、他の男たちが望んでいるから、自分も彼女と結婚したいだけだ、と彼女は考えていました。

ある日、アントニオは、簡素な彼の家を早朝に出ました。太陽が昇る前に、畑へ働きに行きました。それは、毎日の日課でした。

朝遅く、アントニオの弟が、毎朝のように、朝食を持ってきました。しかし、アントニオは、彼の朝食を食べながら、弟がたいへん悲しそうにしているのに、気付きました。

「何か悪いことがあったのか？」とアントニオが聞きました。

「それは、ひどいことだ。」弟が答えました。「本当にひどいことだ。」

アントニオは困惑しました。「何が本当にひどいことだ？」彼は尋ねました。

「アルマンとマラが結婚するんだ。」と弟は答

えました。

アントニオはびっくりしました。「どうやって、それを知ったんだ？」彼は問いました。

「ここへ来る途中、」弟は答えました。「私は毎日やるように、マラの家をそばを通ると、彼女と彼女の父が、来たる結婚について、話していたんだ。マラは泣いて、彼女はアルマンが嫌いで、決して彼とは結婚したくない、と告げていた。しかし、彼女の父は、マラの言うことを聞かず、結婚は既に、アルマンと彼の両親によって準備されていることを告げていた。結婚は、すでに遅れることなく、行なわれる。」

アントニオは、言葉もなく、心は重く感じていました。彼には、美しいマラなしの生活など考えられなかったのです。

しかし、遅すぎました。結婚の準備はすでに進行中でした。料理長たちは、高価な結婚のお祝い用の食べ物を作っていて、司祭は彼の最高の式服を用意し、とりまきは、その服や化粧や髪の整髪準備をしていました。今にも始まりそうな結婚式に、すべての人が、幸せそうでした、マラを除いては。彼女はたいへん悲しんでいました。

マラの家から行ける、町の最高の洋服仕立て屋は、彼女に町の人が見たこともない、最高の結婚式のガウンを作りました。

しかし、仕立て屋が、彼女の家へ行く途中、マラは寝室に座り、泣き続けていました。彼女は結婚のために、どこにも行けないことを知り、父に手紙を書きました。彼女が手紙を書き終わると、それをベッドに残して、家からこっそり出て行きました。

夕暮れになって、マラの父は、娘がどこにもいないことに気付きました。そして、彼はベッドの上の書き物を見つけ、それを開きました。マン・アンドイの心は、涙の跡のある手紙を読んで、沈み始めました。それには、こう書かれていました。

「親愛なるお父さん。心から愛しています。私のしたことを許してくださるよう。私には、アルマンのような男と結婚しての生活は、考えられません。愛していないし、尊敬もできません。そ

して、私の真の恋人アントニオとの結婚を禁じられたので、私にできることは、死において、真の平安と幸福を見つけることだけです。私はアントニオと死後の世界で、もう一度会うのを待ちます。そこで、私たちの霊は、永遠に過ごせるでしょう。さようなら、お父さん。私をゆるしてください。」

マラの父はすぐにアルマンに連絡し、心をかき乱すニュースを与え、ふたりの男は、失ったマラを、町の人々の助けによって、探し始めました。

ついに夜中、マラの父とアルマンは、恐ろしい発見をしました。彼らは、近くの湿地帯にマラとアントニオの、命のない死んだ体を見つけました。ふたりの恋人は毒を飲んで、お互いに腕を抱きしめて、一緒に死んだのでした。

困惑した父とアルマンは、ふたりの死んだ体をマラの家に運び、そこで埋葬の準備をしました。夜通し、町全体はマラとアントニオの体を前にして嘆きました。

次の朝早く、アルマンとマラの父は悲しんで、愛するマラを埋葬し、墓の前で、すべての悲しむ町の人々と一緒に、何時間も泣きました。

死によって、ふたりの恋人マラとアントニオは、共に埋められました。

その朝、埋葬後、太陽が地平線に昇ると、いくつかの不思議なことが、町の人々がマラとアントニオの体が発見された所に行ってみると、起こっていました。

人々が見て驚いたことには、奇妙な形の岩が、ふたりの恋人の死んだところに大きくなっていました。岩は若い男と女の形をして、一緒に抱き合っているのです。この普通じゃない岩を見て、町の人々は「マラとアントニオ」という言葉を言わないではいられませんでした。

その普通じゃない岩は、まだ今日までその湿地に立っています。それを訪れる人々は、驚かされています。岩の成長したその村は「サパンバト」と今日では呼ばれ、マラとアントニオの愛のように、その伝説は永遠に続くことでしょう。